

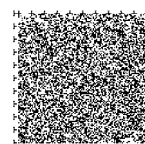
京都基本構想

概要版



京都市

2025年(令和7年)12月



これは音声コード
(Uni-Voiceコード)です

京都基本構想とは

- 千年先を見据え、今後25年間（2026年～2050年）の「**まちの羅針盤**」となるものです。
- 京都市の最上位の都市理念である世界文化自由都市宣言（1978年策定）が示す「都市の理想」の実現に向けて、わたしたち京都市民が**これからも大切に、未来に引き継ぐべき価値や、めざすまちの将来像**を示しています。

【京都市の政策体系】

都市の理念（都市の理想像）
世界文化自由都市宣言

市政の基本方針（京都のまちの羅針盤）
京都基本構想

京都基本構想を具体化する計画
分野別計画、新京都戦略

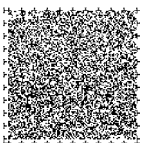
京都基本構想を具体化する単年度の事業
毎年度予算

なぜ、いま「まちの羅針盤」が必要なのでしょう？

わたしたちのくらしは、社会や技術の進歩によって便利になる一方で、気候変動の影響や社会的分断の顕在化など、これまでのように経済的な成長だけでは解決できない課題がいくつも生じています。

京都でも、長い年月をかけて受け継がれてきたくらしの文化や伝統的な町並み、^{あきな}商いのあり方など、このまちらしさをかたちづけてきた大切なものが、失われかねない状況にあります。

京都がこれからも京都らしくあり続け、千年先まで多くの人々をひきつけるまちであるために、この変化の激しい時代の中で、何を大切に、どんな未来をめざすのかをみんなで共有する「まちの羅針盤」が必要です。



世界文化自由都市宣言が示す 「理想の都市」への道筋

世界文化自由都市宣言では、都市には理想が必要であること、そしてその理想は、世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い^{しょうさつ}省察の上に立ち、市民がその実現に努力することが必要であると述べています。京都基本構想は、世界文化自由都市宣言が示す道筋をもとにした構成になっています。

- 「都市は、理想を必要とする」（序文・第四章）
- 「世界の現状の正しい認識」（第三章）
- 「自己の伝統の深い^{しょうさつ}省察」（序文・第二章）
- 「市民がその実現に努力する」（第四章・第五章）

世界文化自由都市宣言

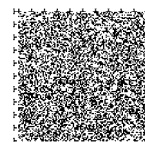
都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い^{しょうさつ}省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすえるべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることを静かに決意して、これを誓うものである。

1978年（昭和53年）10月15日 京都市



策定のプロセス

京都市民の皆様をはじめ、市内外の幅広い方々からの御意見や、概ね35歳以下の若者で構成する「未来共創チーム会議」からの提言も踏まえ、「総合計画審議会」で議論を積み重ねられました。そして、審議会から「京都基本構想」の策定に係る答申をいただき、それを基に京都市の視点で文章表現等を精査したうえで、市会に議案として提案し、京都基本構想審査特別委員会での議論を経て、全会一致で議決いただき、策定しました。

市民意見の募集開始 2024年10月～2025年9月

特設サイト（みんなの理想京 ideal Kyoto）や市民等が参加する対話イベント、アンケートなどを通じて、市内外から2万3千件を超える御意見をいただきました。



未来共創チーム会議からの提言 2025年2月3日

「京都が大切にしている・共鳴する価値観はなにか」等、さまざまなテーマで議論を重ねていただき、その結果をとりまとめ、審議会に提言いただきました。

※ 巻末「参考資料」参照

パブリック・コメントの実施 2025年7月14日～8月14日

市民をはじめ多くの方々から1,514件の御意見（うち、約半数が20歳代以下の次代を担う世代の方々）をいただきました。



総合計画審議会からの答申 2025年9月11日

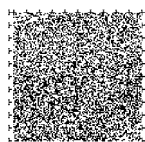
約1年にわたって議論を重ねていただき、その結果を答申として取りまとめ、京都市に提出いただきました。

京都市会で全会一致で議決・策定 2025年12月11日

「京都基本構想案」について、市会（京都基本構想審査特別委員会）での活発な議論を経て、全会一致で議決いただき、策定しました。

「京都基本構想」の施行

2026年1月～2050年12月



京都基本構想の構成

序文

京都が大切にしてきた3つの価値を未来に継承していく決意を示しています。

第一章

京都基本構想 策定の背景

世界文化自由都市宣言が掲げる「都市の理想」にいま一度立ち返り、京都基本構想を策定するに至った背景を示しています。

第二章

京都のかたち

序文が示す3つの価値が育まれてきた歴史や風土と、その価値がさまざまな人によっていまのわたしたちの暮らしの中に受け継がれてきていることを示しています。

第三章

世界・日本・ 京都市のいま と未来への 課題

世界、日本そして京都市が直面している、またこれから表面化しうる課題や危機等を示しています。

第四章

わたしたち 京都市民が めざすまち

序文が示す価値を未来に引き継いでいくため、3つの価値に紐づける形で、9つのめざすまちの将来像を描いています。

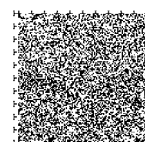
第五章

京都を生きる わたしたちの これから

京都市民だけでなく、京都とさまざまな関わり方をする人も「わたしたち京都市民」と捉え、力を合わせて京都のまちづくりを進めていくことやその際の行政の役割などを示しています。

未来への 問いかけ

京都基本構想をきっかけに、みんなで未来の京都を考え、ともに語り合い、行動していきたいという想いを込めています。



これは音声コード
(Uni-Voiceコード)です

序文

京都が大切にしてきた3つの価値を未来に継承していく決意を示しています。

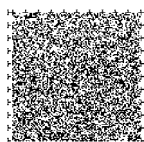
京都基本構想では、冒頭の6行で最も伝えたいことを端的に表現しています。

“ わたしたち京都市民は、京都市が、
わたしたちと世界中のあらゆる人々にとって、
歴史と文化を介して人間性を恢復^{かいふく}できるまち、
自然への畏敬^{いけい}と感謝の念を抱けるまち、そして、
自他の生^{せい}をともに肯定し尊重し合えるまちであり続けるために、
不断^{ふだん}の努力を重ねていく。

ここでは、京都が京都であり続けるために、わたしたち京都市民が**これからも大切にしていきたい3つの「価値」**を、3つの「まちのすがた」として表現しています。その価値は人々のくらしや生業^{なりわい}の中で大切に受け継がれてきたものであり、京都の未来に引き継いでいく「決意」を示しています。

序文では、こうした価値を、次の3つの短い文章で言い換えています。

- “
- 人間は、過去に生かされ、未来を生きている。
 - 人間は、自然に生かされ、自然を生きている。
 - 人間は、共同体に生かされ、共同体を生きている。



これからも大切にしていきたい3つの価値

1 歴史と文化を介して人間性を^{かいふく}恢復できるまち

神事や^{げいどう}藝道、^{こうげい}工藝、神社仏閣、庭園が現在に受け継がれているように、「過去」の積み重ねの上に「現在」があり、**ひとりひとりのくらしの積み重ね**の先に「未来」があるという、時間の連なりを意識しながら生きること

2 自然への^{いけい}畏敬と感謝の念を抱けるまち

鴨川や桂川の河川敷が憩^{いこ}いの場となり、地下水が京料理や酒づくりを支えているように、わたしたちも**自然の中を生きる命の一つ**であるという謙虚さを持って、自然の恵みに感謝しながら生きること

3 自他の^{せい}生をともに肯定し尊重し合えるまち

町内会や登下校の見守り、習い事、小さなお店の常連客、大学生・留学生のように、経済合理性よりも、**生身の人と人とのつながり**を大切にして、互いの違いを受け容^いれ、互いに尊重し合いながら生きること

序文であえて使った難しい漢字とその意味

・ 恢復（かいふく）

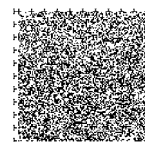
「恢」は「もどる」という意味のほかに、「ひろめる」「おおきい」という意味を有しており、「恢復」はより高い次元で元の状態に戻る（本来のあるべき状態に戻る）ことを意味しています。

・ 畏敬（いけい）

自分（たち）を超える人や物などの偉大さや存在感に対して抱く、おそれや敬う気持ちが両立している精神状態を意味しています。

・ 藝（げい）

一般的に用いられる「芸」は、もともと「草を刈り取る」という意味を有しているのに対し、旧字体の「藝」は、「木や草を植える」という意味を有しており（例：園芸、農芸）、本基本構想では「藝」を用いています。



第一章 京都基本構想策定の背景

1978年

世界文化自由都市宣言の策定

2011年 地方自治法改正
基本構想の策定義務が廃止

2025年

京都基本構想の策定

まちの理想の実現に向けて、わたしたち京都市民が大切にしていきたい価値を示しています。

1983年 / 1999年

京都市基本構想の策定

1999年に策定した京都市基本構想は、「わたしたち京都市民」を主語とし、市民の根底に流れる価値観を、「めきき」「たくみ」「きわめ」「こころみ」「もてなし」「しまつ」という6つの得意技として再確認しました。

第二章 京都のかたち

序文が示す3つの価値が育まれてきた歴史や風土と、その価値がさまざまな人によっていまのわたしたちの暮らしの中に受け継がれてきていることを示しています。

悠久の自然との 共生の中で

京都は、まちを囲む山々を水源とする豊かな河川や地下水などの恩恵を受け、庭園や茶道、酒づくりや京野菜などを発展させる中で、「わたしたちも自然の中を生きる命の一つである」という思想を育ん

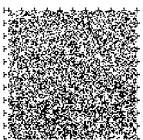
できたまち。

この思想は、年中行事や食、装いなどに表れる四季折々の季節感として、いまも暮らしの中に息づいています。

歴史の重なり、 文化の奥ゆき、 ひとの連なり

京都は、戦乱等の危機を文化の力で乗り越えながら、歴史を重ね、その中で育んだ文化を人々の愛着と努力によって受け継いできたまち。

これは、まちの先人たちが、歴史と文化を伝え合い、学び合い、教え合ってきたからこそできたことです。



節度と矜持に基づく ひらかれたまち柄

京都は、多様で多彩な人々が集い、交わり、違いを受け容れ、支え合ってきたまち。だからこそ、伝統を守り抜く矜持と、互いの立場や領分を弁えて協働できる節度が育まれ、人々の信頼の基礎になっています。

この節度と矜持に基づくひらかれたまち柄のもと、古いものを守るとともに、新たな文化や産業を創出してきたことが、現在の大学や研究機関、先端技術産業の集積につながっています。

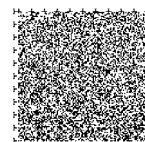
世界有数の 学藝の府

京都は、学術と文化・藝術の双方で世界的にも稀有な「学藝の府」として知られているまち。これを支えているのは、京都の価値を体現する学術や文化、藝術、伝統的な匠の技や祭事、商いのあり方を学び合い、教え合う、人の連なりである「京都学藝衆」の日々の積み重ねであり、価値の継承に不可欠な存在といえます。

第三章 世界・日本・京都市のいまと 未来への課題

世界、日本そして京都市が直面している、またこれから表面化しうる課題や危機等を示しています。

- 人口動態の変化は、コミュニティの弱体化のみならず、住民自治の伝統や支え合いの精神を希薄化させ、福祉や行事、文化の保全にも影響を与えています。
- 経済面では、地域のくらしや文化をも支えてきた地域企業の担い手が不足。また観光客の増加に伴い、特定の観光地への訪問客の集中、伝統的な町並みや商いのあり方の変容など、市民生活と生業に影響が生じています。
- 環境面では、記録的な豪雨や猛暑日が増加し、市民の日常生活に大きな影響が。また、祭事や食文化などを支えてきた貴重な在来種が消失の危機にあります。
- 国際社会では、新型コロナウイルス感染症の流行や戦争・紛争の発生・継続、自国第一主義への回帰など、不安定な状況が継続しています。



第四章 わたしたち京都市民がめざすまち

序文が示す価値を未来に引き継いでいくため、3つの価値に紐づける形で、9つのめざすまちの将来像を描いています。

第一節 歴史と文化を介して人間性を^{かいふく}恢復できるまち

本物（ほんまもん）を 追究・創造し続ける

短期的な利益のみを求めるのではなく、市内外の人々と切磋琢磨^{せつさたくま}しながら積極的に連携・協力し、時勢^{じせい}に翻弄^{ほんろう}されることなく、本物（ほんまもん）のさまざまなかたちを学び、受け容れ^い、新たに創造し続け、まちの活力や基盤としていきます。

本文中のキーワード

^{ふえきりゅうこう}
本物（ほんまもん）、不易流行、感性

世界の文化と交流し、 新たな文化を創造し続ける

市内の人々が、世界の人々と交流を重ねながら、世界へと活躍の場を広げていける、そして、多様で多彩な人材がこのまちと交ざり合うことで生まれる新しい文化を受け容れ^いながら、日本中・世界中の人々に選ばれるまちにしていけます。

本文中のキーワード

^{しんしゅ} ^{きしょう}
進取の気性、遊び心、異端と辺境

「夢中」と「感動」に^{あふ}溢れ、 学び続けられる

まち全体をキャンパスと捉え、未来を担う子どもや若者をはじめ、このまちの至るところに息づく歴史や文化、匠^{たくみ}の技などに触れられる環境を整えていくことで、さまざまな物事を個性に応じて追求することができ、だれもが学び続けられる、夢中と感動^{あふ}に溢れたまちにしていけます。

本文中のキーワード

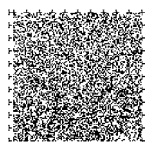
夢中、まち全体がキャンパス

平穏^{へいおん}と静寂^{せいじゃく}のもとで自己と 世界に深く向き合える

このまちの自然と歴史と文化が醸成^{じょうせい}してきた平穏^{へいおん}と静寂^{せいじゃく}のもと、自分自身や世界とにじっくりと深く向き合い、あらゆる分断を乗り越え、尊重し合えることを再確認できるまちであり続けることで、世界の平和と共栄に貢献していきます。

本文中のキーワード

^{せいひつ}
静謐、省み続ける、平和と共栄



第二節 自然への^{いけい}畏敬と感謝の念を抱けるまち

謙虚に自然と関わり続ける

自然の中を生かされている命の一つであるという謙虚さを持って、歴史と文化をかたちづくってきた自然の恵みに感謝しながら、日々の暮らしを営み、自然と共生するまちにしていきます。

本文中のキーワード

四季折々の生活

京都議定書誕生の地としての^{きょうじ}矜持

災害や感染症などの危機からしなやかに立ち直る

歴史の中で培ってきた危機を克服するしなやかさを保ち、さまざまな主体と連携・協力しながら、これから生じる危機に備え、対応する術を探求し、立ち直ることができるまちにしていきます。

本文中のキーワード

しなやかさ、ひとのつながり

第三節 自他の^{せい}生をともに肯定し尊重し合えるまち

多層的でゆるやかなつながりが続く

住民自治の伝統を大切にしつつ、肩書きや立場を超えて、さまざまな人々とのつながりを^{つむ}紡ぎ続けることにより、誰もが安心して暮らし、愛着を抱くことができるまちにしていきます。

本文中のキーワード

^{すい・いき}粹、多層性、ゆるやかなつながり

支え合いの中で日々の生活を営める

互いに支え、支えられる関係の中で、誰ひとり取り残されることなく、それぞれが社会とのつながりと役割を担いながら、自分らしく、安心して安全に過ごすことができるまちにいきます。

本文中のキーワード

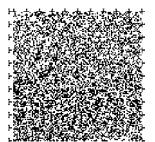
役割の循環、社会とのつながり

ひとりひとりの個性や価値観を尊重し合える

性別や国籍などに関わらず、互いを認め合い、尊重し合いながら、すべてのひとが個性を発揮し、「居場所」と「出番」を見つけていくことで、それぞれが望む生き方や暮らし方を実現できるまちにいきます。

本文中のキーワード

「居場所」と「出番」、^{じゅよう}受容



これは音声コード
(Uni-Voiceコード)です

第五章 京都を生きるわたしたちのこれから

京都市民だけでなく、京都とさまざまな関わり方をする人も「わたしたち京都市民」と捉え、力を合わせて京都のまちづくりを進めていくことやその際の行政の役割などを示しています。

3つの価値は、単なる理念ではなく、人々のくらしや生業なりわいの中で大切に受け継がれてきたものであり、永く後世こうせいに遺のこしていきたい、わたしたち京都市民の大切なものです。

しかし、価値は見えないもので、意識しないと消えていってしまいます。

だからこそ、わたしたち京都市民は、日々のくらしや生業なりわいの中で、この価値を常に見つめなおし、自覚し、共有し、行動につなげ、未来に引き継ぎ、9つのめざすまちの将来像の実現に向けて努力していく必要があります。

そのために、

多義たぎ的な市民と、より積極的きょうどくに協働きょうどうしていく

京都のまちは、このまちでくらす市民の皆様はもちろん、通勤・通学される人々から大学生・留学生、観光で訪れる人々、休日に趣味や習い事で訪れる人々まで、さまざまな関わり方みいだを見出すことができます。

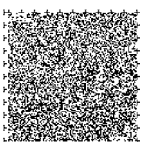
これからは、市内に居住されていなくても、京都のまちに愛着を抱いていただいている人々を、「**多義たぎ的な市民（＝0.1市民）**」として捉えて、ともに京都の価値についての理解を深めるとともに、めざすまちの将来像の実現に向けて、より積極的きょうどくに協働きょうどうしていきたいと考えています。

行政は、公事おおやけごとにかかわる市民と多義的な市民との結節点となる

これからは、より多様でより多彩な人々が、自分事として公共にかかわっていただけるよう、行政は、業務のあり方ふだんを不断に見直して、公・共・私の境界をできるだけ低くして、**公事おおやけごとにかかわる市民と多義的な市民（＝0.1市民）とをつなげる結節点となり**、ともに対話と議論を重ねて、みんなが協働きょうどうでまちづくりを担っていけるような仕組みを設計していきます。

そして、

京都にかかわるすべての人々が、このまちに「居場所」と「出番」を見つけ、またつくり出せるよう協働きょうどうしていくことで、京都の未来の基盤にしていきたいと考えています。



未来への問いかけ

この「未来への問いかけ」には、京都基本構想をきっかけに、みんなで未来の京都を考え、ともに語り合い、行動していきたいという想いを込めています。

変化の大きい時代、正解は一つとは限りません。だからこそ、「京都らしさとは何か」、「何を次の世代へつないでいくのか」という問いを持ち、対話と議論を重ねていくことが大切です。

そのため、京都基本構想では、7つの問いを設けています。

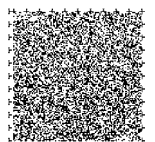
例えば、

- “ 観光客が増加を続けていく中で、わたしたちの生活や生業なりわいと観光産業をどのように調和させ、伝統的な町並みや商いあきなに支えられているまちの魅力や活力の向上につなげていくのか。
- ・ 少子高齢化をはじめとする社会的要因で支援・ケアを必要とする人が増え続けつつも支援やケアを担う人材が減少していく見込みであるところ、どのように誰ひとり取り残さないまちを築いていくのか。
- ・ わたしたちの京都が、このまちの千年の歴史に対して、ひいては、これから千年先の未来に対して、胸を張れるものであるか。

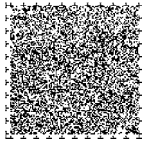
京都の未来をつくるのは、特別な誰かではなく、京都にかかわるわたしたちひとりひとりです。

わたしたちが、このまちの価値や魅力を見つめなおし、何を大切にしたいのかを、**常に問い続けること**。その積み重ねこそが、京都の明日を切り拓きます。

あなたの一步は、何ですか？



これは音声コード
(Uni-Voiceコード)です



参考資料

審議会及び未来共創チーム会議名簿

※五十音順、敬称略、令和7年12月時点

京都市総合計画審議会

会長 宗田 好史 | 関西国際大学国際コミュニケーション学部教授/京都府立大学名誉教授

副会長 安保 千秋 | 弁護士
曾我 謙悟 | 京都大学公共政策大学院院長

委員

赤松 玉女 京都市立芸術大学名誉教授	貫名 涼 京都大学地球環境学堂助教
小川 さやか 学校法人立命館副総長/ 立命館大学大学院先端総合学術研究科教授	濱崎 加奈子 公益財団法人有斐斎弘道館館長/ 京都府立大学農学食科学部准教授
榊田 隆之 一般社団法人京都経済同友会代表幹事	原 敏之 日本労働組合総連合会京都府連合会会長
阪部 すみと Tsunagaryオフィス合同会社最高執行責任者	福富 昌城 花園大学社会福祉学部長
杉田 真理子 一般社団法人for Cities共同代表/ 都市デザイナー	藤野 敦子 京都産業大学副学長・現代社会学部教授
鈴鹿 可奈子 株式会社聖護院ハッ橋総本店代表取締役社長	ブラー ポンキワラン 市民公募委員
高屋 宏章 社会福祉法人京都市社会福祉協議会会長	堀場 厚 京都商工会議所会頭
田中 成美 市民公募委員	牧 紀男 京都大学防災研究所教授
	松井 道宣 一般社団法人京都府医師会会長

審議会特別委員(起草者)兼未来共創チーム会議特別委員

野村 将揮 | ハーバード大学デザイン大学院/(一社)京都哲学研究所Executive Advisor兼Chief Strategist/
Yamauchi No.10 Family Office Executive Advisor/京都大学成長戦略本部

(前委員)肩書きは、委員就任時のもの

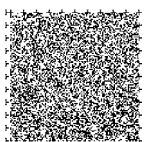
塚本 能交 | 京都商工会議所会頭(令和6年10月まで)

京都市未来共創チーム会議

池坊 専宗 華道家・写真家	田口 成人 京都市職員(都市計画局)
伊住 禮次郎 茶道総合資料館副館長	都地 耕喜 EVER株式会社代表取締役
大井 葉月 京都市職員(産業観光局)	仲田 匡志 株式会社SOU代表取締役/ U35-KYOTOプロジェクトマネージャー
大竹 莉瑚 市民公募委員	三川 夏代 株式会社メルカリ『mercari R4D』/ 「月光観測所」共同オーナー
杉田 真理子 一般社団法人for Cities共同代表/ 都市デザイナー	

(前委員)肩書きは、委員就任時のもの

安野 貴博 | 合同会社機械経営CEO/AIエンジニア/起業家/SF作家(令和7年5月まで)



未来共創チーム会議の提言 「これからの25年、京都のまちづくりにあたって大切にしたい思想・価値観」

未来共創チーム会議において、「大切にしている・共鳴する価値観はなにか」について行った議論をとりまとめ、審議会に提言されたものです。

※第4回審議会（令和7年2月3日開催）で提示

01

弱いつながりもデザインした「0.1市民」を数多く作っていく

薄くつながる人々や人以外とも関係性を創り、京都のまちを創っていく主体として捉えてもいいのではないかな

02

京都市民に解釈・行動を委ねる“無計画さ”や“余白”も大切

自ら考え、行動していくためには、多様な価値観を認め合い、それを受け止める「余白」が感じられると良いのではないかな

03

脱成長・脱競争の社会へ。ベストだけでなくベターも認める

高いよりも程よく、速いよりも丁寧に、完成よりも未完・終わりがなく、競うよりもそれぞれの時に混ざりあう、といった一元的ではない目線を持つことが必要ではないかな

04

誰もが“育む・支える”まなざしを持つ

特にこれからを生きる若者、子どもたちや弱い立場の人の視点が大切ではないかな

05

超長期目線で考える

未来は今と過去の積み重ねであり、千年前から紡^{つむ}がれてきた京都独自の価値観に立ち戻ることが大切なのではないかな



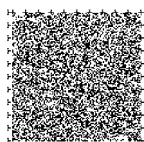
京都基本構想の全文及び策定に関する取組については、
京都市情報館をご覧ください。



全文ページ
二次元コード



策定に関する取組ページ
二次元コード



これは音声コード
(Uni-Voiceコード)です

音声コードの読み取りには
専用アプリ「Uni-Voice」
のインストールが必要です。

発行:令和8年3月／総合企画局都市経営戦略室
京都市印刷物 第072300号